

祝 創刊 300号

今年は、倶楽部創立 25 周年、会報「もりの手紙」創刊 300 号を迎えた記念すべき年。これまでに沢山の方々が関わり支えて今日に至る。「もりの手紙」には、もりメイト倶楽部 Hiroshima の歴史が刻まれ、対外的には、もはや倶楽部の【顔】となりつつある。

会報「もりの手紙」が果たす役割は、情報の共有はもちろん、私たちの活動を外へ向けて積極的に発信すること。そして、それは大きな社会の流れを生み出すきっかけとなるかもしれない。

初代広報担当の北村さんは、創刊 100 号に「もりの手紙」が発行された当時のいきさつを書かれています。また、数人の皆さんに「もりの手紙」への思いやエピソードをお寄せ頂いた。

今一度振り返り、400 号への歩みの一歩としていきたい。

～「もりの手紙」発行のいきさつ～ 初代広報担当：北村浩司

『倶楽部が発足した 97 年の 3 月、倶楽部の結成を話し合う会議でのことだったと記憶している。「会報を作ろう」。誰かが提案した。「せっかく発行するなら毎月出そう。毎回の活動内容も詳しく報告しよう」。私もそう主張したように思う。一部の役員だけでなく、みんなが情報を共有することが、このような組織を長続きさせる最大のカギだと思ったからだ。最初約 30 人で始めた倶楽部も、今では大所帯になった。部会もできて、活動も多岐にわたっている。それだけに、情報の共有、ということは、これまで以上に大事になるだろう。もりの手紙の重要性はますます高くなっているのは間違いない。』

・・・2005 年 10 月号「100 号」記念号から・・・



藤原 京華(旧姓 東田京華) ～8 代目広報担当～

もりの手紙 300 号おめでとうございます。私、今は岡山に住んでおり、すっかり活動にご無沙汰しておりますが、松ヶ原でのキッズ開催は続き、いつも関係の方々にお気遣いいただきありがとうございます。最近の会報は一段と素晴らしく、澄さんのご苦勞と皆様の力の結集を拝見しています。

思えば、入会后すぐの例会か総会にて、先代編集長の辻邊(つじべ)さんが後継を求めてらして。風邪をひかれていたのもありしんどそうで、「山仕事はそんなにできないけど、私にできることなら」と、うっかり手を挙げてしまったのが始まり(笑)!! 日々残業の中、毎月の締め切りに追われ、深夜や仕事中に必死で制作していたことを思い出します。新入りでも編集することで倶楽部のことがよくわかり、みなさんと仲良くなれて、貴重な経験や学ぶ機会をいただき、楽しい思い出がたくさん出来ました。発送の役員会後の一杯も楽しく、みなさんのパワーに刺激をいただきました。

入会してまだよくわからない～という方に! セっかくの出会いです、もう一歩踏み出し、たくさん関わることをお勧めします!

2005 年から京華さんは編集に携わって来られました。今も活用させて頂いている沢山のイラストはデザイナーの京華さんの手によるものです。(岡山在住 賛助会員)

米田 圭子

5 班(育成講座 19 期)

「森の手紙」300 号発刊おめでとうございます!

私の手元にある最初の会報は 2014 年 6 月号で、205 号のようです。もりメイトの研修中に渡していただいたものです。

それからおよそ 100 号分の 8 年は私の歩みの記録とも言えます。この 1 年余りはコロナや家族の介護で活動できていませんが、毎月届く「森の手紙」に力をもらっています。これからも皆様の活動報告を楽しみに応援させていただきます。



西澤 永恵 3 班(育成講座 2 期)

97 年(平成 9 年)6 月に、「もりメイト養成講座」に入ってから、倶楽部の皆様にお会いしたのが最初の出会いでした。丁度その頃に「もりの手紙」が創刊されましたので、その頃からの読者です。広報担当さんは変わっていかれていますが(今は 10 代目)、つくる思い、届ける思いは変わりなく、引き継がれています。こんなに長く毎月発行し続けている団体は稀ときいています。皆さん、これからも稀を形づくっていきましょう!

